



# 立野

練馬区立立野小学校

平成28年 5月号

<http://www.tateno-e.nerima-kyo.ed.jp>

## 「立野」にて

副校長 池田 吉弘

桜が満開の中、入学式・始業式と、平成28年度が始まり1ヶ月が過ぎようとしています。先日「一年生を迎える会」を終え新一年生も「立野っ子」の新しい仲間になりました。それぞれに、新しい教室、新しい先生、新しい友達とも慣れ、楽しく学校生活を送る子供たちの元気な声が聞こえてきます。

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」有名な文学作品の冒頭部分です。(誰の作品でしょうか? 答えは、このページの右下です。)私は、立野小学校に赴任してきて、この冒頭のフレーズを二度思い出す体験をしました。

一つめは、7年ぶりの電車通勤が決まった時です。自宅から電車を乗り継いでくるため時間がかかります。それが、嬉しくてたまりません。自分の時間がもてるからです。自転車通勤の時にはできなかったことができるわけです。限られた時間とスペースではありますが、大いに楽しもうと思います。

二つめは、「立野の空は広いな」と感じた時です。赴任して間もない頃、出張のため正門を出てすぐです。一気に視界が開けました。学校の周りで、このような風景を私は見たことがありません。その後、地域を巡る機会がありました。幹線道路と大きな商業地域に近いはずなのに自然豊かです。私にだけ見えるのかもしれませんが、校区内で映画の作品に出てきそうな風景を目の当たりにしました。昭和の自分の生まれ故郷の感じといたらいいのでしょうか。懐かしくも不思議な光景です。かと思えば、整然と区画された道路に手入れの行き届いた大きな公園。近代的なテニスコート。なんととっても、千川の流れ。東京にいることを忘れてしまいそうです。この環境の中で育った子供たちは、伸び伸びと健全に育っていくのだらうと思います。地域が守ろうとしている大きな強い意志を感じます。

4月中は、多くの方に授業中の教室だけでなく、登下校の様子や休み時間の校庭等も見回り、子供たちの学校生活を見守っていただきました。地域全体で地域の子供を大切にしようとする気持ちが表れているようです。この期待に応えるためにも、学校として子供たちの心の教育(豊かな心の育成)の充実を目指していかなければなりません。そのためには、言い古された言葉かもしれませんが、家庭と地域との連携を強めていく必要があります。特別な場合のギブアンドテイクではなく、日常的なギブアンドテイクの関係を築いていきたいと思っています。「立野っ子」が大好きな校長先生をはじめ、教職員とともに子供たちの教育に真剣に取り組んでいきますので、ご協力よろしく申し上げます。

### 携帯電話の校内への持ち込みについて

携帯電話の普及に伴って、小学生でも利用している子供が増えています。しかし、学校では、「学習に必要なものは学校に持ってこない」というルールで子供たちに指導していますので、携帯電話の校内への持ち込みは、ご遠慮いただいております。

特別な事情がございましたら、担任まで必ずご相談ください。

### 学校だより・ホームページ等への写真掲載のお願い

立野小学校では、学校生活における子供たちの生き生きとした姿を学校だよりやホームページで公開したいと考えています。写真を掲載する場合は、子供の顔ができるだけ特定できないものを選んで行いますが、事情により、お子様の写真掲載を控えたい方は担任まで連絡帳でお知らせください。